

## 校友の著書紹介

尾崎 まこと (昭49学文) 著

文学・詩学論集  
『詩を生きたるために』  
近・現代の超克竹林館 刊  
定価2,860円 (税込)

私、尾崎(米田)は1969年入学で当時は学生運動の盛んな時代でした。一年留学して卒業していますが、少なからずその影響があります。顧みて、運動の独善性や暴力性などすべてを肯定できるはずはありません。しかし今日に至る時代の問題性を自分の事として問うエネルギーは、混迷の時代と言われる今の日本に必要なものではないでしょうか。

本書の副題「近・現代の超克」とは混迷の文明的背景を指摘したものです。内容は直接的には詩人とその詩の論評ですが、「詩と人間存在」の深い関りを述べたものになっています。詩を書いたり読んだりしてください。詩を書いた詩を全ての人に生きて欲しいという願いを書いておきます。

ひよつとしたら人々がAIに支配・管理され互いに孤立するか、一人一人詩を生きて感性をとりもどし共生できるか、その分岐点におかれているかもしれ

ません。理屈ばかり述べてきましたが、結構面白く具体的に書きました。どうぞぜひ一読ください。

Sabine Sommerkamp 著  
竹田賢治 (昭52D文) 神戸学院大学・  
名誉教授) 訳『17 Ansichten des  
Berges Fuji.  
富士17景、絵と短歌』ludicium 社 (ドイツ) 刊  
定価€18.00

著者サビーネ・ゾマーカンプさんはドイツの俳句研究家であり、俳句や短歌、詩も作る学者詩人です。

1957年(5歳)に両親と日本を旅し、はじめて富士山に出会いました。その時の印象が忘れられず、生涯にわたって日本への愛着を持つようになりまし。大学在学中に短歌と俳句という日本の詩形式の研究に没頭し、博士論文『イマジズムとビートジェネレーションに与えた俳句の影響』英米抒情詩の研究』(ハンブルク大学)にまとめました。この論文はこの分野におけるそれまでの研究を包括したものです。はじめての日本への旅から57年を経て、彼女は子息を伴って富士山に再会しました。17葉の綺麗な富士山の写真(子息の撮影)に

1首ずつの短歌(5行、5・7・5・7・7シラブル)が載せられた本書はとても美しい歌集です。本書に寄せられたディートリッヒ・クルーシエ(Dietrich Krusche, 1965-2025。元・ミュンヘン大学教授)のエッセイも秀逸です。竹田賢治(神戸学院大学名誉教授、ドイツ語俳句研究者)の翻訳が日本の読者の皆様にもこの歌集への興味を引くことができれば幸いです。

竹田賢治 (昭52D文) 神戸学院大学・  
名誉教授) 著

## 『ドイツ俳句と季節の詩』

明石書店 刊  
定価3,300円 (税込)

明治以降、日本の俳句は翻訳と紹介の時代を経た後にドイツ語圏の一般の人々に知られるようになる。本書は、ドイツ語圏における俳句の受容の歴史と文化的背景を解説するとともに、古典から現代の日独両言語による俳句の具体例と「季節の詩」の紹介を加えた「ドイツ歳時記」ともいえる一冊。

濱田利英 (昭49M工) 著

## 『AI時代の新・実在論』

大学教育出版 刊  
定価3,740円 (税込)

本書は次のような文で書き出されています。「AIの進歩は凄まじい。かつて人間疎外を克服しようとして実存主義哲学が誕生したように、これから本格的に到来するAI時代においては、人間のアイデンティティを明らかにする実在論が求められます」と。そして実在論を展開した後、次のような文で締めくくられています。「私の実在論からいえることは、愛や人生の意義は儂いが真の実在であるということですよ。また著者は、本書執筆の経過について、次のように述べています。「私は、本学卒業後、高校の物理の教員をしていました。そして定年退職後、高校や大学の非常勤講師を務める傍ら、学生時代や教員時代に分からなかったことや疑問に思ったことを解決していく中で、それらが雪だるま式に膨れ上がり本書が出来上がりました」と。また内容については、「私の実在論は、物理法則やその考え方を人間の精神の解明に持ち込み、AIの知能と人間の知性の違いや自由意志の存在証明をしています。その根底に存在するのは、人間肯定人生賛歌です」と述べています。著者は本書の内容についてお話する機会があれば、いつでもどこへでも出かけていきますと述べています。